



K120.73

8

2

纂編郎一精藤加門專樂音
學小訂增

集歌唱發開

卷下

兌發堂斐有市形山

訂增
開發唱歌集下卷

目次

第一 志々雪聲

第二 誅のみち

第三 うき死

第四 学びのすゝめ

第五 陽田川

第六 招魂社

第七 東にをむ

開發唱歌集下卷

音 樂 專 門 加 藤 精 一 郎 編 纂
增 訂 小 學

開 發 唱 歌 集

下 卷

山 形 市 有 斐 堂 發 兌

增 訂 開 發 唱 歌 集 下 卷

目 次

第 一 志 々 電 聲

第 二 謙 の み ち

第 三 う や 丸

第 四 字 ひ の す め

第 五 隅 田 川

第 六 招 魂 社

第 七 東 孔 ち ち

開 發 唱 歌 集 下 卷



第八 いはへ

第九 げんぎほりき

第十 松のみどり

第十一 紙靴帽子

第十二 日本どのくぬ

第十三 卒業式

第十四 みぎのめよかけ

第十五 錐の穂

第十六 棠ゆく世

第十七 満ちびの玉

第十八 糸師靴忍

第十九 春靴けり

第二十 別世のうた

以上

第二

まゆきほらる



1 去 ら ゆ き あ つ め て ま な び し ひ と は
2 赤 タ ル ラ ア ツ メ テ マ ナ ビ シ ヒ ト ハ



そ の お は そ の ま ま よ に こ そ て ら せ
ヒ カ リ ハ ソ ノ マ マ ミ ニ コ ソ リ ハ レ

第一 白雪ほらる

一 白ゆきほらつゑて。ままびら

人は。それ名はそのま

せ小赤そてらせ。

二 螢をあつめて。ほなび

心は。光りはそのま

まにこそせはせ。

第二 備ことのみち

ぶはハクも
 カにニナで
 むんりりこ
 サタギハふ
 アもスカあ
 ぶくクモに
 ハすシタこ
 ノシ
 イヤタアこ
 リセヲモる
 ハろヒ一あ
 ツニキフカ
 イホツケい

のししし志
 ベベベベ
 るるるる
 もモモモ
 まマママ
 ぞヲヲヲ
 ちチチチ
 みミミミ
 のノ此ノの
 ことととと
 コホコホ
 まマママ

第二 備ことのみち

一 此川はりいさずあざむらず。
 まほいどのこちを備もるべし。
 こころをやすくとたんよは。
 備こととれとちかまもるべし。
 厚^{あつ}肉^{にく}をたのしくもたんよは。
 備^{まこと}の又^{また}ちを守^{まも}るべし。
 ルふもあーたものはりあく。
 ままどのこちを備もるべし。
 いのある事^{こと}ふあふとても。
 備^{まこと}こととれ^{みち}な^なさまもるべし。

第三 三つ葉

第三 三つ葉

一 うさぎよ うさぎよ かにみて はしる。小山や 飛とりて さえゆく 月の雲くも 宿やり かくれぬ ときこそ まげま。 みましく ことごとく あそべよあそべ。

二 かはけよよ およ見えて うたふ。柳やなぎも ことごとく さえゆく 月の雲くも 宿やり かくれぬ。 みましく ことごとく あそべよあそべ。 うたよ うたよ。

第四 學ひのまゝめ

うめや さくらは はやちりて もみぢ ちぢむる ほごもか
 ユビヲ ササレン ソノヲリハ クイカナ シメドカヒゾナ

く き けきは ちりきて としくれぬ あすを たのみて
 キ バジノ ホードモ アダニセズ フレヲ ウケテ

わす るる な つきは ひとを またぬかり いつしか
 モノ オボヒ マーナビガ マバノ ナツヒニ カシコキ

としの あつを へて きろかの ものとよのひとに
 ヒトト ナリヌベシ マーナロ ヲメ ヲワテハタチ

第四 學ひのまゝめ

一梅やさくらははまやちりて紅葉
 なるぬるほごもかちぢむるは
 ちりきて年くれぬあすを
 たのめてわするるあはれは人を
 まいぬなりいつし年の教
 そつてちぢむるものと世の人ふ
 けむるをさされんそのちりて
 のあつをちぢむるあつを
 一の程もあつをせせず教へを
 うけてものおねえ学をげ
 まはれんあつをせせず学を
 へし学をげめあつはだちり

第五 隅田川

一 隅田川のそる花や岸乃
橋の花はのげ。うつるあみ
まど魚だてなく。老り髪
そへる月をのけ。

二 隅田の河はたぐらき。雲
霞をいづる月をのけ。あは
まど漁くる原を残りぞ残
るるあまのうへ。

三 隅田川は秋の夜や。四か
にかやぐいさり火をうつる
ひのうはとちこちふ。波を
うつせ波のうへ。

第五 隅田川

一 隅田川のそる花や岸乃
橋の花はのげ。うつるあみ
まど魚だてなく。老り髪
そへる月をのけ。

二 隅田の河はたぐらき。雲
霞をいづる月をのけ。あは
まど漁くる原を残りぞ残
るるあまのうへ。

三 隅田川は秋の夜や。四か
にかやぐいさり火をうつる
ひのうはとちこちふ。波を
うつせ波のうへ。

1 ハナサカバ
 2 きよらか に ハナサカバ
 アツマノサクラカヨシノヤマ
 はほねとつーぐるうぐひすの
 ソノハナヨヨマデニホフナ
 こーるも のどけきにはのたも
 マナビのハナモカクナラシ
 まあびの はあもかしたら
 じん

第七 花川まはるの

第七 東の花

一 花をならばまなあらば。
 何づまはさくらりのよーの
 やま。それ花世はあひあり。
 花のまもかくならん。
 二 花よるか小蛇をらかす。
 花音をほぐる花の聲も
 花はけき花のおと。花の
 ちをせーたふらん

第八 祝

第八 祝

一 祝（いは）よ。旗をたて。

我の君いよ。ども

うた（よ）。ドンドンドロニコドン

二 いを（祝）よ。業代まで。

我がきみいよ。ひど

うた（よ）。ドンドンドロニコドン

第九 げんごまーきーは魚いーあり

第九 げんごまーきーは魚いーあり

リもケリて
ナセヌフも
ミちリヤほ
イのグチい
へいクウヤ
ハもヲモほ
キゼカラひ
シーシ
マイナモほ
サがノノき
イのりロい
ニム一の
ゲおケシそ

ハどくるク
キン甲礼ト
トまミガゴ
ルしすらル
アセすむワ
ノんとはヲ
キましうケ
ーしー
テせらとタ
ルかどふモ
クにどかカ
セーしーダ
ヨホワむア

メるノシリ
タウ子づナ
ノたかくシ
ニち口けイ
クラクかへ
ノフハもハ
トづロセキ
ーコまシ
モトヤマ
ノフフのサ
セづカとイ
カセーニ
ワホムひゲ

第九 實小まーきーは魚いーあり

よせくるてまーきーは魚いーあり。
あが目れとどの國たため
たのぶあさもいれちをも
あまのねーまん木ーまどと
大げー小づーせうちたはる。
けむりの中をくぐりぬき
あまをさーととす
むくふとまろハをながねれ
佛の門をもうちやぶり
向ふまはむろがまは
人の山さもあけく
其いきほひはやをせて
あまも佛ーをあるぬく
げんごまーきーハ魚いーあり。

第十三 卒業式

マナビノニハニオセチテテ
カハラヒニボエシオミチチの
フミノハヤシニトシヲヘテ
ヒカリモハドモニカガヤのん
エガシモサカエハナモサキ
カヘレヤサどももハふるさど
ミシルのケフコソタノシケツ
にし丸のきーぬをかきシガツレツ

第十三 卒業式

一 學びの意おねいたまふ。
ふみ花を知らに年を強く。
枝も葉を花にさす。
実のるりふこきたのーけれ。
二 習ひひ覚えー通るは。
光りもともふ輝やがん。
うしきやともく古き人。
にー花のきぬを重く。

4/4

1 ミガケヨ ミガケ オコタ ラスリ
2 トーシノ クルハ カキ リゴナ スシ

フキハ マタ トカ ヘリ ゴナ スシ
マナビノ ミチニ オコタ ラバリ

フシヘノ ミチニ オコタ ラバリ
イツシカ モトニ カヘ ルチナ リシ

第十四 みのちよよまかけ

第十四 みのちよよまかけ

一みかけよこのちよよまかけ
らさず。厚日はまじりか
さず。教へのおおこたは
いづらもとふか(る)あり。
ニや一のすくははかぎり
あり。学まなびのちよよまかけあり。
人のいのちいかぎりあり。
めいよはせよおかぎりあり。

1 イ トモミ ー ゲカ ー キ ナツノヨ モー アカツ ー キ
 2 く もにそ びへー し たあやま もー のぼら ー ば
 トホキ フコノヨ モー マナビノタ ー メニ子 ムラジト
 おどか こえざらん ー そらぎ ー ひたせる うなばらも
 モモニラ ー シタルキリノホ ノー スルドーキーコトキ
 わたらは つひに わたを 存り ー ましへー のみ ー ちも
 ツラヌキシ ー イサホシイマニシラ ー レケリ ー
 かくてこを ー まぎびはげめよひど ー びどよ ー

第十五 きのこ

第十五 錐状種

一 以ともみぢかき 葎状種。
 曉きと不れたるの夜もまあむの
 ためよねむいどとともむの
 たる錐の穂のまもむむむ貫
 ちー。まむむむむむむむむむむ
 二 雲小そびへー たるあやまもむむむむ
 おどかこえざらん。そらぎひひひ
 せる海原もわらばははひひ
 酒るあう。まーのふちもかいて
 おそ。まむむむむむむむむむむ

第十六 さかゆくみよ

サカユクミヨノキミガヨヤ タダヨフクモモ
 ハレワター! ハールルミソラノトキツーカービ
 タミノカマドノケムリターツ ミヨノナニオフ
 アキラケク ラサマルミドシハヨロツヨマデモ トツクニ
 ビートムツミアーヒ フーカキメグミゾアリガタキ

第十六 葉ゆくみよ

一 さかゆくみよの君の代や。
 たがよふくもはせありり
 ちるみそふれどきつのがせ。
 たこのまごれけむりなつ。
 とよれあななまあまはく。
 治まるは年はあままで。
 外国をむねはあひ。
 どのまもあざありつらた。

三ガケヤミガケヤヒトビトヨ マナビノタマノ
 クモリナク クモラタミヨラマストラヲガ
 ココロハカミノタマモトゾ ユメニモワスルナ
 トキノマモ ツユナケガシソソノグマヲ

第十七 學校の玉

第十七 學校の玉

一 みのけりやまのきやくんじよよ。
 まあまの玉れきりあく。
 くせらぬ伊代のまきりだが。
 あろは神れ賜ものぞ。
 ゆめも忘るな時の留も。
 はゆあけが志そ其玉を。

1 大 ぶ ひ に ち れ し ま ち び の と も
 2 ホ タ ル ノ と カ リ ツ ム シ ラ ユ キ

を し の く は に も つ む と し づ き
 ワ ス ル ル コ ト ナ ク ワ カ レ シ ノ ナ ハ

ワ が シ ノ オ ン ハ 一 ワ ス ル ナ ヨ
 ち が ち を よ も に 一 か が や か せ

ワ ガ シ ノ オ ン フ ワ ス ル ナ ヨ
 ム せ こ そ よ も に か が り せ

第十八 教師の愛

第十八 教師の愛

一 たがひやあましき一 学びの友。
 を一 (の) 庭もほむ年原。
 教師は慈はあするあまよ。
 一 ねねんをあまするなま。
 二 堂は光りほむ向あ。
 一 ちこまかく別道一 縁は。
 一 名を四方ふかやのせ。
 一 名を四方ふかやのせ。

第十九春のけいき

ハールノ ケシキヲナガムレバ デニウツクシキ
 ヤエザクラー カーゼモネラーサヌアスカヤーマ
 シモトニニホヒ ウツルマーデ ラヘノノハナノ
 イトサクラー ニシキヲヨソフハルソラー

第十九春のけいき

一春のけいきとながむれば
 実サ小コつツくクきキ八ヤ重シ櫻ズ
 かカせセもモちチさサぬヌ花ハのノ山ヤマ
 たタもモとト小コみミほホひヒろロうウまマで
 上ウ所ソの花ハれレのノさサかカらラんンら
 錦ニをオよソふフ春ハのノさサきキ



1. ア フ テ ワ カ レ ノ ア ル ナ タ バ
2. ひ じ の つ と め は き ミ の た め
フ き カ レ テ ナ ド カ ア ハ ガ ラ ン
ケ フ ノ ワ カ レ ハ ア フ コ ト ノ
き み と く に ど の た め に こ
ハ シ メ ト ワ し は イ ハ フ ナ ー リ
ひ ど の つ と め は た の し け れ

第二十 ありのうた

第九 別れのうた

一 あふてあふせし海ありば。
別れてあふか阿そざらん。
いふのあふれは阿ふ事れ。
はーめとあふはひそふなり。
二人のほとめはきこれため。
君ふはあふすは國れと免。
地と國とれためふあそ。
人のほと免は樂しけれ。

